

児童・生徒の作文

ぼく(わたし)のまちの未来

「わたしのまちの未来」

仰木中学校 2年 森岡満希

「おつかれさん。」
部活帰り、道を歩いているといつもこの声がかけられます。

家の前を掃除していたり、犬の散歩をしていたり、買い物へ行く途中だったり…そんな人達が笑顔でこう言ってくれるのです。部活で疲れていても、私の方も笑顔になってしまいます。

このまちの良いところといえばやっぱりあいさつじゃないでしょうか。

そんな仰木の里学区で最近目につくのは「ミニミ」です。またいで通らなきゃならぬくらいわざわざ「ミニ」が広げられているのを見かけます。

せっかく新しいこのまちなにもっとたいないと思います。知らないところで公園清掃などに力をいれている方々もいるのに…。

だから私はこのまちの良いところが生きるように皆で声をかけ合って大切にしていけばいいと思っています。そして笑顔がたえないまちであり続けて欲しいです。

「仰木の里に住んで」

仰木の里小学校 6年 笠松 実里

私の生まれ育っている仰木の里の好きなところは、高いビルがあまりなく、夏には花火が場所により見えることです。自動車が少ない私の苦手な排気ガスが少ないところも気に入っています。それに、近くにスーパーマーケットや駅もあって便利なのも多いです。

こんな仰木の里にも、私には心配なところがあります。それは公園で過ごす人たちが少なくなっていることです。このことは、これからの仰木の里を考えると、とても心配になります。

仰木の里にある公園は、春は桜、夏は新緑、秋には紅葉と季節ごとにみんなの目を楽しませてくれます。こんなにたくさん広くて美しい公園のあるところはめったにないと思います。

私は、子どもからお年よりまで楽しくなごめる公園があつて、笑顔がたえない町になるといいなと思います。そのために自分ができるのは、周りの人に公園で過ごす楽しみを伝えるため、自分もいっぱい公園で遊ぶこと、みんなが交流できるような温かい環境をつくることだと思います。

私は、ずっと大きくなってもこの仰木の里に住みたいです。

「わたしのまちの未来」

仰木の里東小学校 6年 堤内 有香

わたしの住む大津の五十年後は、今よりもっと人が住んでいて、大きなお店などができてにぎやかになっていると思います。なぜかという、昔は車や新幹線がなかったのに、今は車も好きな時に乗れるようになったし、新幹線ができていんなどへ入行けるようになったように、五十年後には大津はもっと技術が進歩してもっと便利になっていると思います。

しかし、まちは便利になりくらしやすくなってきていますが、不安なことが二つあります。

一つは、人口の問題です。今、日本では子どもが減ってきて問題になっています。このまま子どもが減りつづけると日本には子どもがいなくなり、お年寄りばかりになってしまつて活気がない国になってしまうと思います。そんな国にしないために、子どもを生むことも大事ですが、子どもを安心して育てられるよう施設を増やしたりすることも大事だと思います。もちろん、施設を増やしたからといってみんなが子どもを生むようになるとは限りませんが、施設を少しでも増やせば子どもを育てやすくなるとおもいます。

二つ目は犯罪のことです。今の時代は犯罪が多くなっています。犯罪の中でも人の命をうばう事件が多くなっています。たとえその人にうらみがあつたとしても人が人の命をうばうことは決して許されることではないと思います。犯罪のないまちにするためには朝、近所の人にあいさつをしたり、なんでも話せる関係をつくることも大切なことだとおもいます。もしかしたら困っていることや、悩んでいるのにだれにも言えなくて、どんどんいろんなことをかかこんでしまつて苦しんでいる子もいるかもしれません。そこから犯罪につながることもあるかもしれません。

わたしもこれからはきちんとあいさつをしたりして、まわりの人と「ミニミニケース」をとるようにしようとおもいます。わたしは思いやりがあつて犯罪のないまちになつてほしいです。

未来のまちがどんなまちになっているかたのしみです。